

My Polaris
佐々木先生の
ポラリス

ポラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき
Beating
Kashima
鹿島

産業医としての20年 医師 佐々木 亮

産業医は職場において労働者の健康管理を行う医師です。

私は平成4年松江広域行政組合の産業医に任命されました。同組合は合併前の八束郡7町1村が単独で消防、ゴミ焼却、下水道処理を行うことができず、松江市と合同でこれらの事業を行うための事業体でした。当時私は産業医としてはまだ未熟でした。

単に健康診断を実施し、その結果説明をすることに終始していました。ゴミ焼却により発生する大量の灰を処理する人たちに対する健康管理、ダイオキシンの問題など何の解決もすることができず、平成13年合併による同組合の解散とともに産業医を退くことになりました。

その後平成15年より昨年まで中国電力松江営業所の産業医を担当しました。松江市の電気というライフラインを守っている人たちの健康管理を託されているので、責任を感じていました。健康診断で異常を認めた人、月45時間以上の時間外労働した人に直接面接し、生活指導や必要な人には医療機関を紹介しました。一番問題になったことは、毎年4~5人のメンタル不調を訴える人たちの対応でした。同社は健康管理対策がしっかりとっていて、このような人たちに対して長期休暇を可能にし、嘱託精神科医と相談しながら職場復帰支援システムを利用し、全員職場復帰ができました。

マスコミで取り上げられた電通の若い女性社員の過労自殺の問題は、会社としての産業医システムが機能していれば避けられたかもしれません。

厚生労働省は平成31年度より、産業医の役割や権限を強化することになりました。今後当院においても健康管理体制を充実させていく必要があると思います。



地域包括ケア病床を開設します。

光風園病院(山口県下関市)への見学



看護部
永田 舞

4月17日～18日の2日間、光風園病院(山口県下関市)へ地域包括ケア病棟を見学させていただきました。光風園病院は地域包括ケア病棟を開設して3年になるそうですが、開設前から常に大切に続けていることは「周辺病院や施設等、地域からの信頼を得ること」だそうです。そのために、開設前には周辺病院・施設への挨拶回りをしたり、現在では「どんな患者でも断らずに受ける」、「必ず60日で帰す」という一貫した理念のもと日々仕事をしているとお話し頂きました。入院を1日5名受けたこともあるとのこと、その情熱が素晴らしいと感じました。管理職としては、うまく病棟運用をしていくためには数字にもしっかりと目を向ける

と、またスムーズなベッドコントロールを行なっていくことが大事になることを学びました。

今回の見学で見せていただいたこと、学んだことを反芻し、当院で出来ることを具体的にスタッフみんなで考え、地域包括ケア病棟における自分自身の役割も明確にしていけたらと思います。



リハ部
村上 直美

地域包括病床開設にむけて、光風園病院に2日間見学に行かせていただきました。全体的に気持ちのいい病院で居心地のいい印象を受けました。スタッフの皆さんもとても気さくで話しやすい方々でたくさんの方の事を教えていただきました。光風園病院とは環境も異なるため難しいこともたくさんありますが、光風園病院のような雰囲気を目指して当院も今後地域包括病床を作っていきたいと感じました。

地域包括ケア病床開設に向けての勉強会開催

事務部 原 栄嗣

前年度に当院は地域包括ケア病床を平成29年10月に開設することが、病院の方針として決定されました。その方針をうけ地域包括ケア病床の機能を、地域包括ケア病床開設予定である4階病棟の担当職員を中心に開催しました。なるべく多くの職員が参加できるようにランチョンタイム方式で勉強会をおこなったり、病棟の休憩室で行ったり工夫をしました。内容は、「①なぜ地域包括ケア病床を開設するのか」「②どういった患者層を診るのか」「③施設基準」「④診療報酬体系はどうなっているのか」「⑤具体的にどのように移行・開設していくのか」「⑥今後のスケジュール」など質疑応答も含めて約1時間程度の勉強会でした。

現在、看護部役職会でもその他の内容で勉強会を開催させていただいております。病院とは、医療制度とは、地域包括ケアシステムとは、施設基準や診療報酬体系、経営的な事等、なにか勉強したいことが各部署ありましたら、その際はお声かけください出来るだけ協力いたします。



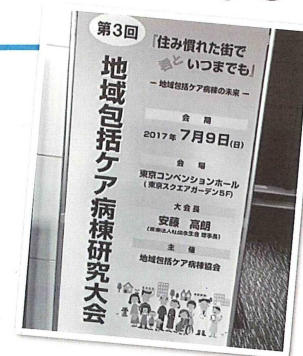
地域包括ケア病棟研究大会に参加



看護部
金坂 晴美

地域包括ケア病床たちあげに向け、今回研修に参加させていただきました。4階病棟では4月から試験的にベッド運用を開始すると同時に業務変更等行ってきました。この数ヶ月で患者層は大きく変化し、さまざまな病態の方が混在しているため、その対応に試行錯誤しています。今回の研修で、地域包括ケア病床とは①急性期治療後の受け入れ②在宅、介護施設から緊急時の受け入れ③在宅、生活復帰支援という機能を担っていかなければならないとあり、他施設も4階病棟と同様の現状であることが、発表を通してわかりました。支援の方法はさまざま、その人の生活を見据えたゴール設定をし、ケアを提供する必要があり、そのためにも他職種での連携が必須であるとのことでした。病棟スタッフが自宅訪問したり、また認知症ユニットを開設し、認知症の方が落ち着いて過ごせる環境づくりをしている施設もありました。

4階病棟はまだ入退院の回転の早さについていけず、患者様の病態の変化にあわせてケアを変更、提供していくこと、退院にむけて必要な指導ができること、同時に記録が充実していること等課題があります。地域包括病床運用にむけ、勉強会を開催し、患者様一人一人に必要なケア、環境が提供できるよう、課題を克服していきたいです。



医療相談部
亀山 庸子

晴天の東京で第3回地域包括ケア病棟研究大会が開催されました。大会参加者は1200名とのこと。満員の会場で記念シンポジウムからスタートしました。

印象的だったのは病院発信で地域づくりを行っている病院の発表です。「地域に帰る」には「帰ることのできる場所をつくること」「帰りたい場所をつくること。」として高齢者に限らず子ども、障がい者、世代等に問わず皆が過ごしやすい地域を目指して取り組んでおられました。退院支援を行う者として、退院先を「自宅」「施設」という視点で捉えるのではなく、安心して帰ることのできる場所がどこなのか視野を広く持って関わることで良かったと思いました。



リハ部
板垣 陽介

当院での地域包括ケア病棟開設に向けて、研究大会への研修に参加させていただきました。シンポジウムでは、地域包括ケア病棟が作られた背景や役割について知ることができました。「ときどき入院 ほぼ在宅」という言葉が地域包括ケア病棟の本質を示しており、状態悪化時のレスパイトとしてすぐに受け入れて早期に返す機能が求められており、いままでの当院での療養機能の意識を変えていく必要があると感じました。

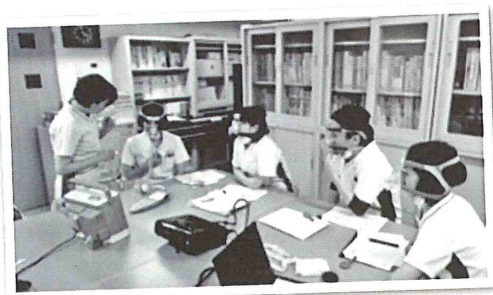
演題発表では、各病院の取り組みや工夫しているツールについて興味をもって聴きました。患者情報シート、退院支援シート、カンファレンスシートなど共通しているのは多職種が簡易で共有しやすいように工夫されていました。当院でも取り入れそうなことは積極的に実践していきたいです。入退院の激しさやデータ管理で日々の対応に追われてばかりでしたが、この研修で改めて当院で地域包括ケア病棟を開設する意義、役割について認識するきっかけとなりました。

新入職員研修会を おこないました



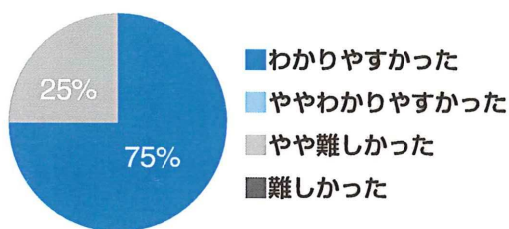
慢性呼吸器疾患看護認定看護師 井上 明子

5月31日に「人工呼吸器とCPAP」についての新人研修を行いました。研修では、初めに講義で人工呼吸器についての知識を学んでもらい、その後、実際にNPPVのマスクを使用し、送気の体験を行いました。各階で、人工呼吸器に携わる携わらないと様々ですが、実際にマスクフィティングや送気の体験を行ったことで、「人工呼吸器やNPPVを装着している患者さんの看護につなげていってもらえた。」と感じました。今年度、初めて新人研修を4回行いましたが、体験を行うことで患者さんの苦痛などを知ってもらい、それが業務に活かせてもらえているので、研修の目的が達成できたと感じました。

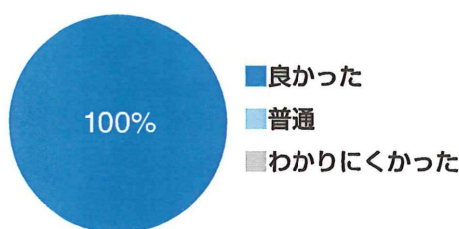


講義についてのアンケート結果より

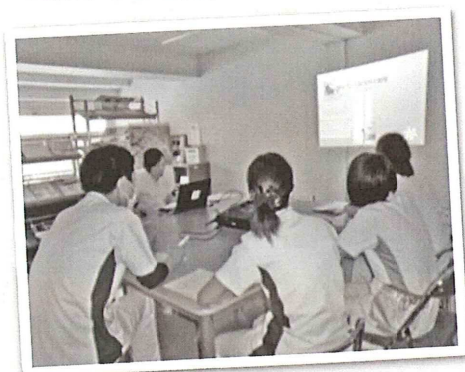
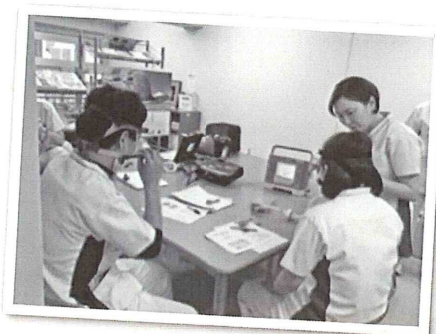
① 講義の内容について



② 講義の進め方について



- 実際にNPPVを体験することで、モードの内容を理解することができた。実際につけていた数分でも跡がつくから、使用されている患者さんのことを考えて、観察点に注意していきたいと感じた。
- 実際に鼻マスクの人工呼吸器を体験させてもらいましたが、マスク装着、呼吸がしにくかったです。体験を通して患者さんの気持ちが少しかもしれないが分かった気がしました。



- 体験を通して、患者様がどのような呼吸状態であるのかを少しではあるが理解できたので、患者様の苦痛を少しでも和らげられるように関わり、知識、技術をつけていきたいです。
- 実際にマスクを装着してみて、マスクをつけた時の思いや感じ方を自分なりに体験する事ができた。この体験をもとに人工呼吸器装着の方のために少しでも安全にすごせるよう、もっと学んでいきたいと思うことができました。

地域連携室便り 55

鹿島病院の「地域包括ケア病床」について紹介



医療相談部 小林裕恵

今回の連携室だよりは、地域包括ケア病床についてお伝えします。高齢化が進み高齢者の医療や介護ニーズはこれからも増大します。この現状に対処するため、地域包括ケアシステムが考えられました。それは「最期まで自宅や地域で暮らしながら、医療や介護のサービスを使っていく仕組み」のことです。このためには、それにあう「住まい」、「生活支援体制」、「医療体制」が必要となります。地域包括ケア病床は、この「医療体制」を支えるために考えられた病床で、入院に際して疾患や医療区分の縛りはありません。

かかりつけの先生が、入院が必要と判断された方であればお受けいたします。軽症急性期・亜急性期などの内科・整形外科的疾患を中心に対象疾患の制限はなく、最大60日間、医療やリハビリ、退院後の生活に向けた支援も行います。

鹿島病院はH29年10月に地域包括ケア病床を開設予定で、現在職員皆で、開設に向けて準備中です。現在、地域の開業医の先生方や、施設などに伺い、この病床の役割や対象患者さんについてお伝えしているところです。下の図はその説明の際に用いるパンフレットです。関心をお持ちの方は鹿島病院の医療相談部にご連絡ください。

具体的には、次のような患者さんが入院対象となります。

① 急性期病院から継続して治療が必要な方、在宅や施設では治療が難しい方

肺炎などの感染症、腰椎圧迫骨折などの外傷・熱中症・脱水症・心不全・褥瘡・癌・持病の悪化・治療薬の調整や病状管理・看取りなど

② リハビリテーションが必要な方

歩行訓練、転倒防止対策、ADL訓練(トイレ、入浴など)口から食べるための嚥下リハビリテーション

鹿島病院地域包括ケア病床のご案内

鹿島病院は、患者さんの在宅や施設での生活を支える役割を担っています。急性期の病院で行うような高度な診断や治療は難しいですが、急性期後、軽症急性期・亜急性期などの内科・整形外科的疾患を中心に対象疾患の制限はなく、対応いたします。リハビリテーションや退院支援も丁寧に行います。ご連絡をいただきましたら、すみやかに入院調整し、最大60日間の入院が可能です。

入院患者さんの例
かかりつけの先生が入院必要と判断された方

急性期病院から継続して治療が必要な方 在宅や施設では治療が難しい方
肺炎などの感染症、腰椎圧迫骨折などの外傷
熱中症 脱水症 心不全 褥瘡 癌 持病の悪化
治療薬の調整や病状管理 看取りなど

リハビリテーションが必要な方 歩行訓練 転倒防止対策
ADL訓練(トイレ、入浴など)
口から食べるための嚥下リハビリテーション

レスパイトケア
インシジョンや酸素管理など
医療行為が必要な方



入院相談連絡先 鹿島病院 医療相談部

月～金 (8:30～17:30) Tel. 0852-82-9096 FAX.0852-82-2639



新企画 職員交流&リフレッシュ

第1回 美味しいコーヒーの 入れ方をプロから学ぼう

7月12日 12:30と13:30の2回に分け42名の参加で講習会を開催しました。コーヒーマイスターである珈琲館の大森店長を講師にお迎えし、コーヒー、ケーキを頂きながら美味しいコーヒーの入れ方を学ぶことができました。アンケート結果からも企画に満足してもらえたようです。

お昼休憩の短い時間でしたが職員の交流が図れ、リフレッシュできたのではないのでしょうか。

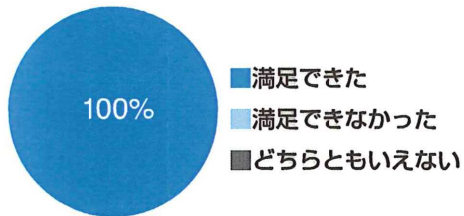
今後も他部署の職員が交流することで鹿島病院の職員のチームワークを強めていければと思います。

広報委員会・広報委員長 川谷 清美

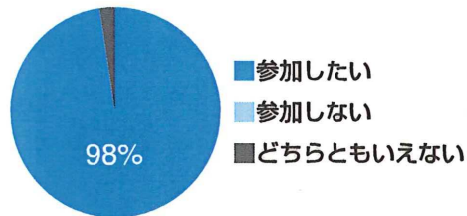


アンケート 回答人数 42名

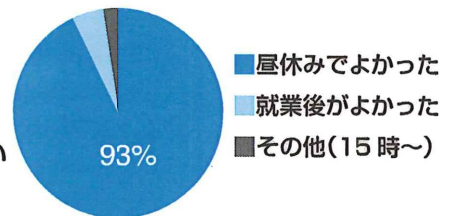
①この企画について



②次の参加について



③開催時間帯について



感想と今後の企画の希望

家でコーヒーを飲む機会が多いので、すごく勉強になりました。ケーキも美味しく良い時間を過ごすことができました。

コーヒーもケーキも美味でした。ありがとうございました。

紅茶もしてほしい。日本茶とか他の飲み物もしてほしい。

お茶教室、お花教室

音楽、マッサージ、太極拳

コーヒーの豆知識がよくわかった。この知識を生かしたいです。

とてもおいしくいただき、たくさんの事を聞けて良かったです。

手作りドレッシング教室



1 答えは8ページ
この子はたぐれ

2

鹿島レンジャーに学ぶ(5)

～鹿島病院の唄大合唱への軌跡～

名は「しずか」の巻

診療部 医師 戸田博敏



平成29年も夏を迎えました。皆様いかがお過ごしですか？最近久しぶりに自己啓発本を購入しました。その中に「目標が高かろうが、低かろうが、必要な努力は同じ*1)」という文章がありました。今までお目(耳)にかかったような気もするし、初めてのよう気もします。「どの道、苦勞するのならば、高い目標を持ったほうがいい*1)」と記されていました。

平成20年も11月後半～12月に入る頃、鹿島病院の唄大合唱の企画は順調に進んでいました。この時期になるとCD各部署配布、管理、配布先担当者も決まってきました。本番での大合唱はCDを流しながら合唱するか？いや、やはり楽器の生伴奏がいいということになります。職員に人はいるものですね、ピアノの担当も決まりました。同じ実現するにも、考え得る最高の形を目指していました、というより結果的にそういう方向に進んでいったという方が正確かもしれません。

多くの人、仲間が協力すると必然的にそうなるのかもしれませんが。本番*2)はカラオケスライドを流しながらピアノとギターを生演奏で大合唱する。自然な発想です。

カラオケスライド、職員に配布する歌詞カード作成依頼、真っ先に思い浮かんだのは医事課でした。それまでの院内研究発表等で医事課発表スライド作成技術、パワーポイント使用のレベルは当院の職員ならだれしも認めるところでした。

F田さん「お手伝いさせていただきます(^ ^)」

A達さん「私もお手伝いさせていただきます。」

期待通りの返事をいただきました。それが11月初旬の頃でした。スライドを作るのはいいけれど、背景はどんな絵になるのかな、どんなのがいいかな？依頼した私も考え続けていました。そんな時、日赤で闘病中の小鯖先生から、鹿島病院に贈られてきました。シクラメン33鉢。いずれもほんとに美しく見事な花でした。ありきたりの表現、自分の筆の拙さを嘆くのみ。小鯖先生がどんな思いで送ってくださったか。正直言って、いまだに想像出来ません。12/1早速、スライドに使えないか医事課スタッフに提案してみました。反応は…

A達さん「大変よい思いつきですね。しかし33鉢のシクラメンは各部署に配布してしまいました。また集めて撮らないといけませんね。ハー。」

戸田「33鉢集めるのは大変です。出来る範囲で各部署に出向いて撮影してみても？一鉢一鉢各部署に飾られている様子を写してみても？その方がアイデアが浮かぶかな？」

同日、間を置かず事務部S根さんに33鉢の撮影の助っ人を依頼したところ快く引き受けてくださいました。そのことを伝えると、

F田さん「シクラメンと職員、シクラメン単独、それぞれあると用途が広がりそうですね。」

全部署に「お花と写真撮影のお願い」のメールを送信しました。私が勝手にチームシクラメンと呼んでいた、S根さん、A達さん、F田さんが各部署に撮影に出向かれました。

この時できた「シクラメンと職員」のスライドが本番大合唱に流されたとき文字通り感動の嵐を呼ぶことになりました。みんなそんなことを思い描いていたわけではなく、苦勞ではあるが、ただ楽しい、なんだかわくわくする感でスライド作りをしていたと思います。

鹿島病院の唄、全職員による大合唱…、言うのは簡単ですが当然、次々とハードルは現れます。しかしほんとにやりたいことであれば、そして仲間がいれば、ひとつひとつ乗り越えてゆく楽しさ達成感にかかります。そしてすべてがつながります。

発起人、世話人の一人としてこれだけやりがいのある、語弊を恐れずに言えば、やりやすい仕事もなかったように思います。本当に依頼するたびに、先生方もそうでしたが、皆さん二つ返事、即決でした。それも積極的なOK。小鯖先生がいかに慕われているリーダーか…

記憶に間違いなければ、医局にはピンクのシクラメンが置かれました。札に銘「しずか」が記されていました。

♪与えられたたくさんの幸せ…

解説:

平成20年(2008年)6月鹿島病院前院長小鯖覚先生が悪性リンパ腫のため松江赤十字病院に入院されました。病と闘うリーダーに「全職員による鹿島病院の唄大合唱」をサプライズプレゼントしようと鹿島レンジャーを含む有志が立ち上がりました。その顛末を報告中です。

*1) 人生の手引き書～壁を乗り越える思考法～ 渡部昇一 著 扶桑社新書 239 2017年5月1日 初版第1刷発行

*2) 鹿島病院の唄大合唱は平成21年3月22日、日曜日、鹿島文化ホール、院内研究発表大会で行われた。



入職

- ①部署 ②趣味・特技は何ですか？
- ③好きなもの・好きなことを教えてください。
- ④一言ご挨拶をお願いします



矢取 美也子

①看護部 2F
②週1回通っている
ビーチバレー
③エステに通うこと
④1年ぶりに白衣を着て新たな気持ちで早く鹿島病院になじめるようにコミュニケーションを取りながら、笑顔も忘れず患者さんの看護に努めていきたいと思ひます。皆様よろしくお願ひ致します。



三原 洋子

①看護部 介護職員 2F
②お菓子作り
③寝る・食べること
④5月より鹿島病院の職員として働かせていただくことになりました。今後も皆様のお力になれるよう安全に正確な職務が出来る様頑張っていきたいと思ひます。至らない点があると思ひますがどうぞよろしくお願ひ致します。



野津 一步

①リハビリテーション科
②楽器演奏(ギター)
③好きなバンドのライブを観に行くこと
④急性期からやってきました。回復期は初めてのことばかりですが、しっかり勉強していきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

職員数

職種	職員数
医師	6名
薬剤師	2名
P T	21名
O T	19名
S T	6名
看護師(准看護師)	88名
臨床検査技師	2名
診療放射線技師	1名
社会福祉士	5名
介護支援専門員	6名
介護福祉士(介護職員)	68名
歯科衛生士	2名
管理栄養士(栄養士)	4名
調理員	10名
事務職員	17名
合計	257名

29.7.1現在

この子はだれ

答え



① 看護部
伊藤 美紀さん
長男: 椋真(りょうま)くん
次男: 琉生(りゅうせい)くん
三男: 彰良(あきら)くん



② 看護部
伊藤 美紀さん
長男: 椋真(りょうま)くん
次男: 琉生(りゅうせい)くん
三男: 彰良(あきら)くん

鹿島病院

①外来部門

診療日数67日		1日平均入数
延外来延患者数	1,154人	17.2人/日

②病棟部門

②-1: 2F病棟 (特殊疾患病棟)

診療日数91日		1日平均入数
延入院患者数	5,485人	60.3人/日
レスピレーター装着延患者数	2,287人	25.1人/日
リハビリ延実施数	2,010単位	22.1単位/日

②-2: 3F回復期リハビリテーション病棟 (回復期リハビリテーション病棟)

延入院患者数	4,763人	52.3人/日
脳血管疾患リハビリ	11,657単位	128.1単位/日
廃用症候群リハビリ	1,829単位	20.1単位/日
運動器リハビリ	15,765単位	173.2単位/日
呼吸器リハビリ	単位	0.0単位/日

②-3: 4F病棟 (医療療養病棟)

延入院患者数	5,178人	56.9人/日
脳血管疾患リハビリ	1,141単位	12.5単位/日
廃用症候群リハビリ	2,210単位	24.3単位/日
運動器リハビリ	530単位	5.8単位/日
呼吸器リハビリ	1,415単位	15.5単位/日
がん患者リハビリ	単位	0.0単位/日

②-4: 短期入所療養介護

ショートステイ延利用者数	36人	0.4人/日
--------------	-----	--------

公人会事業報告

H29. 3.4.5月

患者重症度指数 強化項目 リハビリ数

在宅サービス部

①通所リハビリ “やまゆり”

稼動日数73日		1日平均利用者数
通所リハビリ延利用者数	2,140人	29.3人/日
短期集中リハビリ実施数	112単位	1.5単位/日

②鹿島病院デイサービスセンター

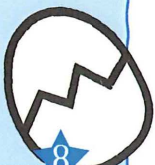
稼動日数73日		1日平均利用者数
通所介護延利用者数	1,508人	20.7人/日

④訪問看護 “いづくしみ”

稼動日数59日		1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医療)	220人	3.7人/日
訪問看護延利用者数(介護・看護)	539人	9.1人/日
訪問看護延利用者数(医療・介護・リハビリ)	250人	4.2人/日

⑤鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼動日数59日		月平均策定数
延ベケアプラン策定数	426人	142人/月
延ベ介護予防ケアプラン数	59人	20人/月



医療法人財団公仁会 基本理念

私たちは、仁愛をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会 基本方針

- ① 鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- ② 患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりとつくしみの心で接します。
- ③ 技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会 行動指針

- ① **Safety** ……安全を最優先します。
- ② **Speedy** ……変化に能動的に挑戦します。
- ③ **Service** ……おもてなしの精神で接します。

▶ 医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、
松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

1. 良質な回復期・慢性期医療の提供(病院機能)

- (1) 回復期医療の充実
- (2) 良質な慢性期医療の提供
- (3) 質の高いリハビリテーションの提供
- (4) 看護体制の充実と強化

2. 在宅生活を支える医療の展開(在宅サービス機能)

- (1) 良質なリハビリテーションの提供
- (2) 良質な在宅生活支援サービスの提供

3. 地域連携 及び 地域貢献

- (1) 病院連携、病診連携、地域(行政(県・市・保健・福祉・介護)、地区)連携

- (2) 予防医療や介護技術を地域へ普及
- (3) 地域への情報発信

4. 人材の確保 及び 育成

5. 医療安全・院内感染対策の推進

6. 医療サービスの質の改善への取組み

- (1) 機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2) 臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3) 患者満足度向上の組織的取組み
- (4) 施設・設備・環境の整備と充実

7. 新電子カルテシステムの検討・移行準備

▶ 患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。
患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

2. 平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

3. インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはありません。

その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聴く(セカンドオピニオン)ことができます。

4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしに開示されません。

▶ 鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定(平成22年1月6日：部長会承認)

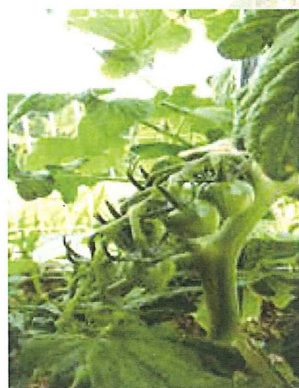
1. 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
2. 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
3. 終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
4. 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
5. 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。



夏野菜・作っています!

◆ピーマン ◆ミニトマト
◆きゅうり ◆なすびの
4種類を作っています

通り八入口前に小さな菜園をつくりました。利用者の皆さんには「一番果は早めに採らんといけんよ～」等アドバイスを頂いたり作業の手伝いもお願いしています。現役時代を思い起こしながら成長、収穫を楽しんで頂きたいです。



通所でらす



大会報告

第6回さくらおろち湖お花見レガッタ大会に参加しました

5月14日に、「第6回さくらおろち湖お花見レガッタ大会」に参加しました。鹿島病院からはミックスの部に2チームがエントリーしてどちらも準決勝まで勝ち進みましたが、残念ながらどちらも準決勝で敗退しました。



編集後記

夏がやってきますが、地域を盛り上げようと地域ごとに様々なイベントを企画されているようです。大きなイベントも良いですが、身近な地域のイベントも、地元ならではの良さを再発見できる機会ですので、今年はそのような場所へも時間が許す限りどんどん足を運んでみようと思っています。最近時間が足りなすぎて、一日28時間ならいいのに…と物思いにふける、ディフェンスに定評のある池上でした。

リ八部 川島淳



■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公に会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/
鹿島病院 TEL(0852)82-2627(代) FAX(0852)82-9221
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637
鹿島病院デイサービスセンター
TEL(0852)82-2665(代) FAX(0852)82-9221

■印刷元 さんきゅう印刷